

高等学校

国語（国語総合 古典）

漢文入門

（訓読の基礎）

古典の学習の中には、漢文の単元があります。

漢文はもともと中国の文語文です。その漢文で表現されたさまざまなもの、**その見方や考え方、生きる知恵などを学び、自己との対話に活用し、現代の私たちの生活を豊かなものにするのに役立てましょう。**

そこで、今日は、漢文の訓読について学びましょう！

◇ 訓読とは

日本人は、中国の文章である漢文を、原文の形を残したまま、日本語として翻訳しながら読む方法を考え出した。これを**訓読**という。

例えば、左のAのような文がある。漢字以外何も書かれていないのでこれを**白文**という。この文を「寧ろ鶏□と為るとも、牛後と為なる無かれ。」と日本語として読むために、「レ」や「一・二」など読む順番を示す符号で**ある返り点**、片仮名の**送り仮名**、「。」「、」「といった句読点を付けたものがBである。

また、Cのように返り点・送り仮名・句読点（これらをまとめて**訓点**という）に従って漢字仮名交じり文に書き改めたものを**書き下し文**という。

A 寧ろ為鶏□無為牛後 **白文**

B 寧^ル為^ト鶏□無^カ為^レ牛^ト後[。]

送り仮名 返り点 読点 句点 訓点

C 寧ろ鶏□と為るとも、牛後と為る無かれ。

書き下し文

◇ 訓読の基礎

1 返り点

(1) **レ点** すぐ下の一字から返って読む。

読書。
ム ヲ

書を読む。

不好学。
ズ ③ ② ①
マ ヲ

学を好まず。

※助詞、助動詞は、書き下す際はひらがなで書く。詳しくは、P10 参照。

(2) **一・二点** 一字以上を隔てた文字に返って読む。

借虎威。
ル ③ ① ②
ノ ヲ

虎の威を借る。

懸羊頭売狗肉。
ケテ ③ ① ② ⑥ ④ ⑤
ヲ ヲ

羊頭を懸けて

狗肉を売る。

(3) **上・中・下点** 一・二点を付けた句を挟んで、更に上に返って読む。

有能為狗盗者。
ヨ ⑥ ① ④ ② ③ ⑤
ヲ ヲ

能く狗盗を為す者有り。

欲上青天覽日月。
ス ⑦ ③ ① ② ⑥ ④ ⑤
リテ ① ニ ト ヲ

青天に上りて

日月を覽んと欲す。

※更に複雑な場合は、「甲・乙・丙」「天・地・人」などの符号を用いる。

◇ 訓読の基礎

※ その他

① **レ・上レ点** レ点で読み上がった文字から離れた文字に返って読む。

從心所欲。 ③フ ③ノ ③ニ ③スル 心の欲する所に従ふ。

勿以下惡小為之。 ⑥カレ ③テ ①ノ ②ナルヲ ⑤スコト ④ヲ 惡の小なるを以て之を為すこと勿かれ。

② **一下点** 一字の熟語に返って読む。

平定海内。 ③ニ ④ス ① ②ヲ 海内を平定す。



訓読の基礎

【練習】

1 返り点に従って読む順に番号を付けよう。

① 少年易老学難成。

② 不患人之不己知。

③ 無不知愛其親者。

④ 不為兒孫買美田。

⑤ 君子不以言拳人。

⑥ 人下以善言為賢。

⑦ 一編一詠、膾炙人口。



訓読の基礎

【練習】の確認

1 返り点に従って読む順に番号を付けよう。

① 少年易老学難成。

② 不患人之不己知。

③ 無不知愛其親者。

④ 不為兒孫買美田。

⑤ 君子不以言拳人。

⑥ 人不以善言為賢。

⑦ 一編一詠、膾炙人口。

◇ 訓読の基礎

2 読まない文字（置き字）

漢文を訓読する際、その文字のはたらきが送り仮名として表わされたり等で読まない文字。（読んだとみなして次の字を読む。）

① 於・于・乎

墜^ツ於^ニ水^ニ。
水に墜つ。

生^{マル}乎^ニ吾^ガ前^ニ。
吾が前に生まる。

② 而

伏^{シテ}而^ナ喜^ブ。
伏して喜ぶ。

心^{レバ}不^ラ在^ニ焉^ニ視^{レドモ}而^シ不^シ見^エ。
心焉に在らざれば、視れども見えず。

③ 焉・矣

三^ハ人行^{ヘバ}、必^ズ有^リ我^ガ師^ガ焉^ニ。
三人行へば、必ず我が師有り。

朝^ニ聞^{カバ}道^ヲ、夕^ニ死^{ストモ}可^{ナリ}矣^ニ。
朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり。



訓読の基礎

P9・10 参照

3 二度読む文字（再読文字）

再読文字は、訓読の際に一字で日本語の副詞と助動詞（動詞）の二つのはたらしきをさせるために二度読む文字。まず、副詞に当たる部分を読み、後で助動詞（動詞）に当たる部分を送って読む。再読する部分の送り仮名は、漢字の左下に置く。

① 未^ダ知^ラ生^ヲ。

未だ生を知らず。

② 老^{イテ}将^ニ至^{ラント}。

老いて将に至らんとす。

③ 且^ニ飲^{マント}之^ヲ。

且に之を飲まんとす。

④ 及^{ンデ}時^ニ当^ニ勉^ス励^ス。

時に及んで当に勉励すべし。

⑤ 応^ニ知^ル故^ノ郷^ノ事^ヲ。

応に故郷の事を知るべし。

⑥ 須^{ラク}尽^{クス}醉^{ヒヲ}。

須らく酔ひを尽くすべし。

⑦ 宜^{シク}為^ル王^ト。

宜しく王為るべし。

⑧ 過^{ギタル}猶^ハ不^ル及^バ。

過ぎたるは

猶ほ及ばざるがごとし。

⑨ 蓋^ツ反^ラ其^ノ本^ニ。

蓋ぞ其の本に反らざる。

再読文字には、必ず返り点が付く。一度目に読むときは返り点を無視して、二度目に読むときに返り点に従う。



訓読の基礎

○置き字の種類

(用法)

① 於・于・乎

文中に置いて、場所・時間・対象・比較・受け身・起点などを表す。

② 而

文中に置いて、順接や逆接の意を表す。

③ 焉・矣

文末に置いて、断定・強調の意などを表す。
調子を整える。

兮

※置き字とせず、読む場合もある。

○再読文字の種類

(読み方)

(意味)

① 未

いまだくず

まだくしない

② 将

まさにくす

いまにもくしそうだ

③ 且

まさにくす

いまにもくしそうだ

④ 当

まさにくべし

(当然) くすべきだ

⑤ 応

まさにくべし

きつとくだろう

⑥ 須

すべからくくべし

ぜひく

⑦ 宜

よろしくくべし

くするほうがよい

⑧ 猶

なほくごとし

ちようどのようだ

⑨ 蓋

なんぞくざる

どうしてくしないのか

せねばならない

◇ 訓読の基礎

4 書き下し文

訓点（返り点・送り仮名・句読点）に従って、漢字仮名交じり文に書き改めたもの。

△ 留意点

① 送り仮名のカタカナは平仮名に直す。
（歴史的仮名遣いそのまま書く。）

転禍^{ミテヒラ}為^ス福^ス。
禍^{ミテヒラ}ひを転^スじて福^スと為^スす。

② 置き字は書かない。

吾^{ニシテ}十^ス有^ニ五^ニ而^ス志^ス于^ニ学^ニ。
吾^{ニシテ}十^ス有^ニ五^ニに^スして学^ニに志^スす。

③ 再読文字は、一度目の読みは漢字を用い、二度目の読みは平仮名に直す。

当^{ニシム}惜^ヨ寸^{ニシム}陰^ヨ。
当^{ニシム}に寸^{ニシム}陰^ヨを惜^ヨしむべし。

④ 助詞・助動詞を表す漢字は平仮名に直す。

他^シ山^テ之^ク石^ヨ、可^シ以^テ攻^クレ^ヨ玉^ヨ。
他^シ山^テの石^ク、以^テ玉^クを攻^クくべし。
(P11参照)

◇ 訓読の基礎

○書き下し文にする際に、平仮名に直す漢字

① 助詞

之・従
自・
与
者・
也・
耳・
矣・
乎・
哉・
夫・
邪・
爾・
耶

読み方 (送り仮名)

の (リ)
よ (リ)
と (リ) ・ か
は
や ・ か
の み
か な
か な
か な ・ や ・ か

② 助動詞

不・被
見・
可・
如・
也・
為・
使・
教・
令・
遣

ず
る ・ ら (ル)
べ (シ)
ごと (シ)
なり
した (リ)
し (ム)

◇ 訓読の基礎

【練習】

1 置き字を○で囲み、書き下し文にする際に平仮名に直す漢字を□で囲もう。

①青取之於藍。

②知恥近乎勇。

③不入虎穴、不得虎子。

④千里之行、始於足下。

2 再読文字に注意し、書き下し文にしよう。

①引水且飲之。

②用人宜取其所長。

3 書き下し文に従って、訓点を付けよう。

①苛政猛於虎也。
苛政は虎よりも猛なり。

②宜従師之言。
宜しく師の言に従ふべし。

◇ 訓読の基礎

【練習】の確認

1 置き字を○で囲み、書き下し文にする際に平仮名に直す漢字を□で囲もう。

① 青取之於藍。

② 知恥近乎勇。

③ 不入虎穴、不得虎子。

④ 千里之行、始於足下。

2 再読文字に注意し、書き下し文にしよう。

① 引水且飲之。水を引きて且に之を飲まんとす。

② 用人宜取其所长。人を用ゐるに宜しく其の長たる所を取るべし。

3 書き下し文に従って、訓点を付けよう。

① 苛政猛於虎也。苛政は虎よりも猛なり。

② 宜従師之言。宜しく師の言に従ふべし。

漢文入門

（訓読の基礎）

以上で、漢文の
訓読の基礎の学習
を終わります。教科
様のことを、教科
書等で探して、復
習してみてください。
い。

〇こちらも覗いてみませんか・・・

<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/basickokugo/archive/resume015.html>

（NHK おうちで学ぼう! for School NHK高校講座）